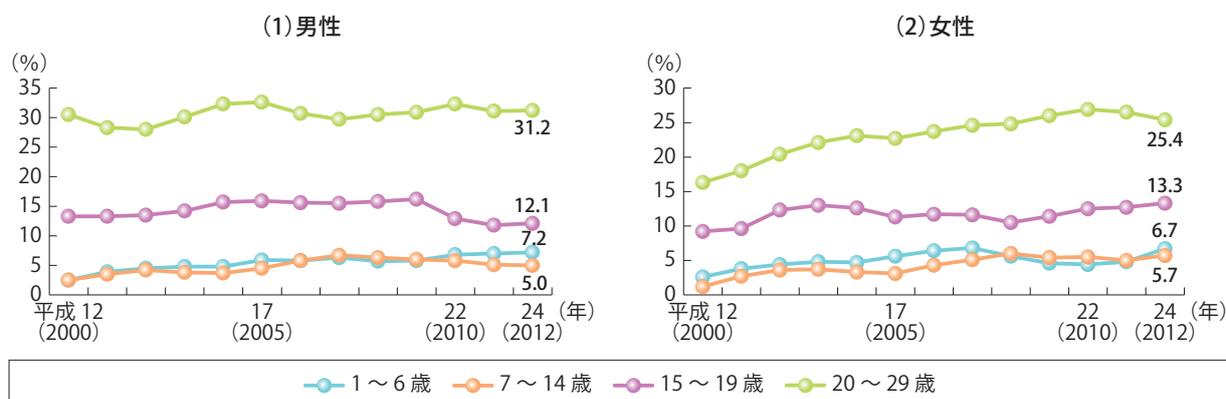


第3節 食育

○30歳未満の朝食の欠食率は、年齢が上がるほど高くなる傾向。(図表12)

図表12 朝食の欠食率



(出典) 厚生労働省「国民健康・栄養調査」

(注) 欠食とは、次の3つの合計である。

①食事をしなかった場合、②錠剤などによる栄養素の補給、栄養ドリンクのみの場合、③菓子、果物、乳製品、嗜好飲料などの食品のみを食べた場合

第3章 成育環境

第1節 教育

1 在学者数と進学率

(就学前教育・保育)

○幼稚園在園者は156万人、保育所利用児童は227万人。幼稚園数は12,905か所、保育所数は24,425か所、認定こども園の認定件数は1,359件¹。(図表13)

(義務教育以降)

○義務教育課程と高等学校教育課程の在学者数は減少が続く。高等教育課程の在学者数はほぼ横ばい。(図表14)

(進学率)

○大学・短期大学への進学率は50%超。(図表15)

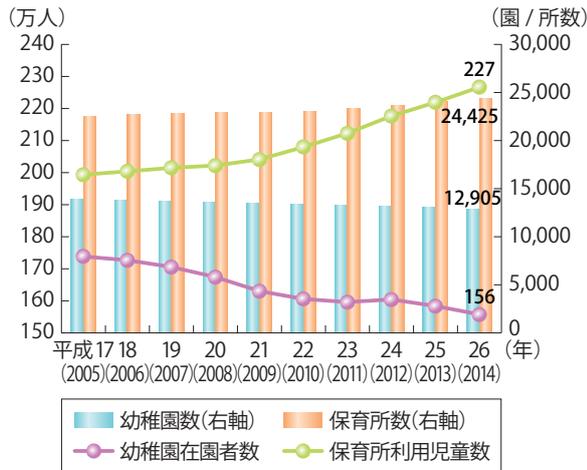
(特別支援教育)

○特別支援教育を受けている者は、406,467人で全体の2.7%。(図表16)

○通常の学級に在籍する小学生・中学生のうち発達障害の可能性のある特別な教育的支援が必要な子供は6.5%程度。(図表17)

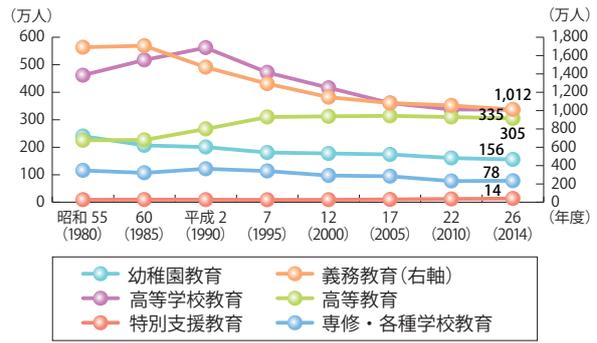
1 幼稚園及び保育所として認可されていない地方裁量型の施設を含む。

図表 13 幼稚園の在園者数と保育所の利用児童数



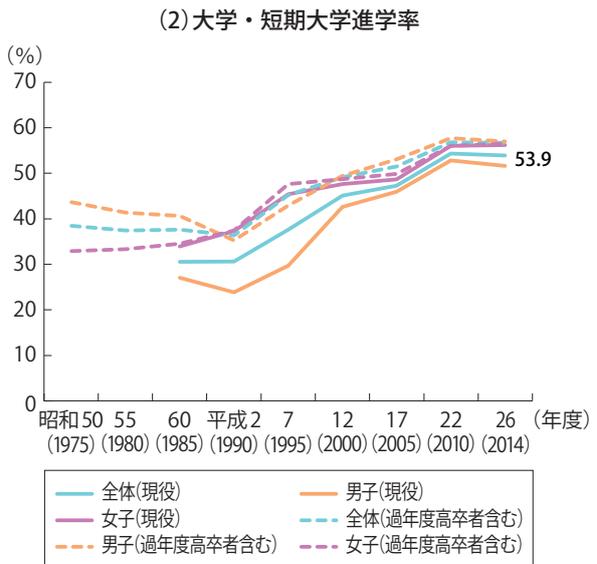
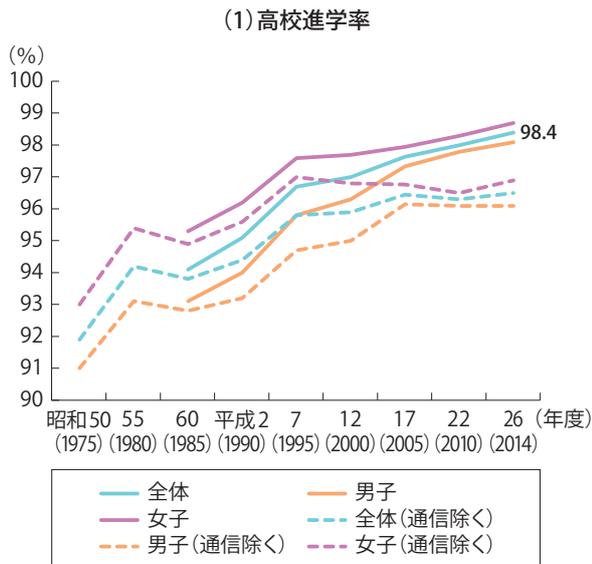
(出典) 文部科学省「学校基本調査」, 厚生労働省「保育所関連状況取りまとめ」
 (備考) 1. 認定こども園の認定を受けた幼稚園及び保育園の在園者数/利用児童数, 幼稚園数/保育所数を含む。
 2. 認定こども園の認定件数は, 平成26年4月1日現在で1,359件(幼稚園及び保育園として認可されていない地方裁量型の施設を含む)。

図表 14 教育種別在学者数



(出典) 文部科学省「学校基本調査」
 (注) 1. 義務教育とは小学校, 中学校, 中等教育学校前期課程を, 高等学校教育とは高等学校, 中等教育学校後期課程を, 高等教育とは高等専門学校, 短期大学, 大学を, 特別支援教育は特別支援学校(平成18年度までは盲聾養護学校の合計)を, それぞれ指す。
 2. 高等学校は本科・専攻科・別科の生徒を, 短期大学は本科学生のほか専攻科・別科の学生と聴講生などを, 大学は学部学生のほか大学院・専攻科・別科の学生と聴講生・研究生などを, それぞれ含む。

図表 15 進学率



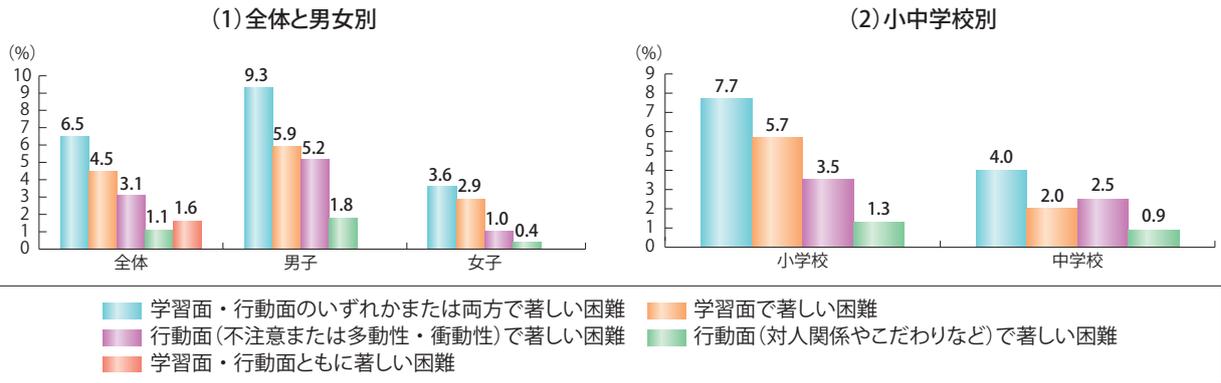
(出典) 文部科学省「学校基本調査」
 (注) 1. 「高等学校への進学率」とは, 中学校卒業者と中等教育学校前期課程修了者のうち, 高等学校, 中等教育学校後期課程, 特別支援学校高等部の本科・別科, 高等専門学校に進学した者(就職進学した者を含み, 過年度中卒者等は含まない。)の占める比率。
 2. 大学・短期大学への「現役」進学率とは, 高等学校と中等教育学校後期課程本科卒業者のうち, 大学の学部・通信教育部・別科, 短期大学の本科・通信教育部・別科, 高等学校等の専攻科に進学した者(就職進学した者を含む。)の占める比率。「過年度高卒者含む」進学率とは, 大学学部・短期大学本科入学者数(過年度高卒者等を含む。)を3年前の中学校卒業者と中等教育学校前期課程修了者数で除した比率。

図表 16 特別支援教育を受けている者(平成26年度)

	幼小中高	義務教育段階(小・中)
総数	15,162,936	10,193,001
特別支援教育を受けている者	406,467 (2.7%)	339,511 (3.3%)
うち特別支援学校在学者	135,617 (0.9%)	68,661 (0.7%)
うち特別支援学級在籍者	187,100 (1.2%)	187,100 (1.8%)
うち通級による指導を受けている者	83,750 (0.6%)	83,750 (0.8%)

(出典) 文部科学省「特別支援教育資料」((1)・(4)), 「学校基本調査」((2)・(3))
 (注) 1. 特別支援学校の在学者数は, 複数の障害を併せ有する者はそれぞれの障害種別に重複計上されている。
 2. 通級による指導を受けている者は, 公立小中学校に関する数値である。

図表 17 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする小学生・中学生



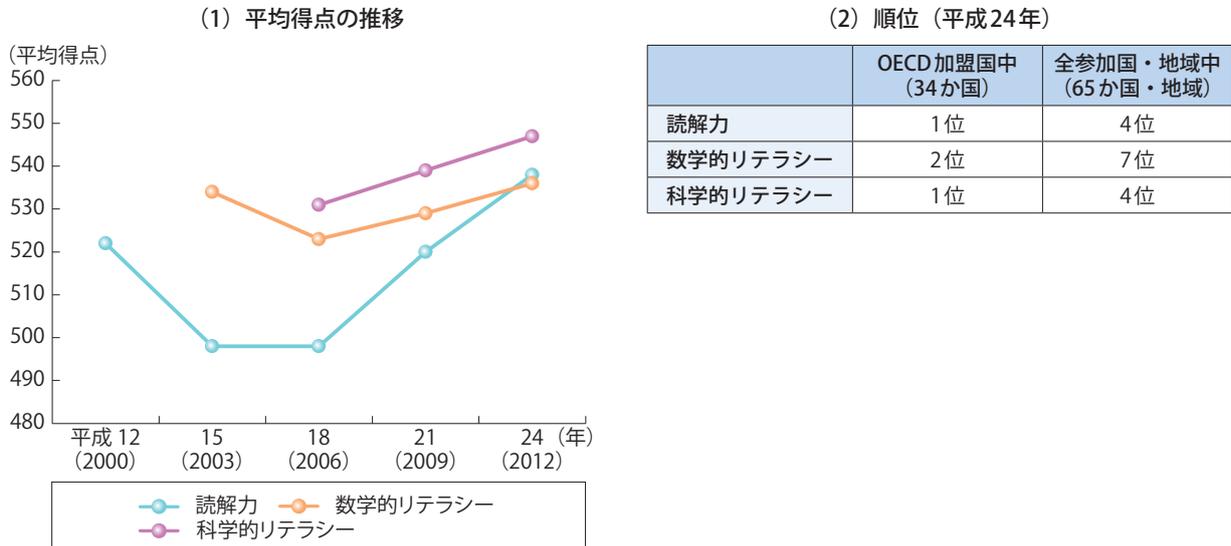
(出典) 文部科学省「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」(平成24年12月)
 (注) 1. グラフの数値は推定値。(1)と(2)の数値は±0.1~1.1%ポイント程度、(3)と(4)の数値は±0.3~5.6%ポイント程度の誤差があり得ることに留意が必要。
 2. この調査における小中学生の困難な状況については、担任教員が記入し、特別支援教育コーディネーターや教頭(副校長)による確認を経て提出された回答に基づくもので、発達障害の専門家チームによる判断や医師の診断によるものではない。したがって、この数値は、発達障害のある者の割合ではなく、発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする者の割合を示すことに留意が必要。
 3. 「学習面で著しい困難」とは、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」の一つあるいは複数で著しい困難を示す場合を指す。「行動面で著しい困難」とは、「不注意」、「多動性・衝動性」、あるいは「対人関係やこだわりなど」について一つか複数で問題を著しく示す場合を指す。「学習面と行動面ともに著しい困難」とはこれら両者を併せ持つ場合であり、それぞれに包含されている。

2 学力

(学力)

○学力は国際的に高い水準。(図表18)

図表 18 OECD生徒の学習到達度調査 (PISA)



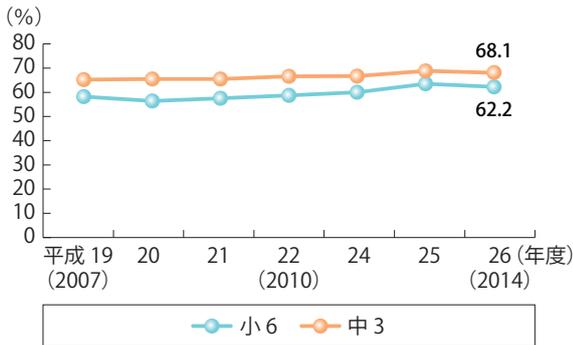
(出典) 経済協力開発機構 (OECD)「生徒の学習到達度調査 (PISA)」
 (注) 1. 義務教育終了段階の15歳児が持っている知識や技能を、実生活の様々な場面でどれだけ活用できるかをみる学習到達度調査。2012年は65か国・地域 (OECD加盟国34、非加盟国・地域31)、約51万人の生徒を対象に調査を実施。
 2. 上記(3)のグラフでは、習熟度レベル5以上の割合を「上位層」、同じくレベル1以下の割合を「下位層」としている。

(学習状況)

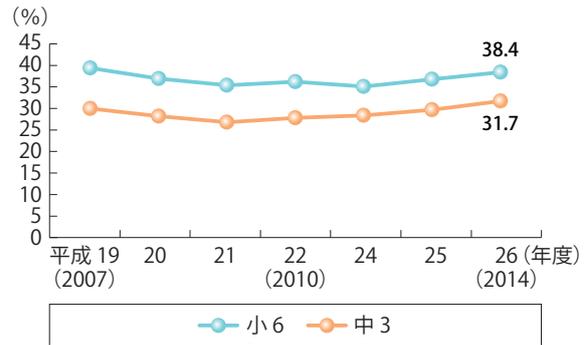
○平日に学校以外で1日1時間以上勉強している小学校6年生・中学校3年生の割合は、若干の上昇傾向。平日に30分以上読書する者は、小学校6年生の4割弱、中学校3年生の3割強。
(図表19)

図表19 小学生・中学生の学習状況

(1) 学校の授業以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強する



(2) 平日、1日当たり30分以上読書する



(出典) 文部科学省「全国学力・学習状況調査」

(注) 1. (1)(2)は学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む。(3)は教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。

2. 平成23年度は東日本大震災の影響などにより調査が実施されていない。

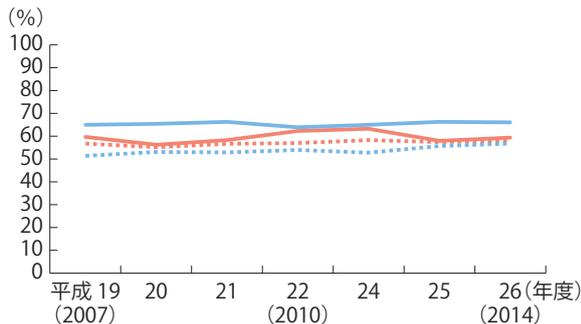
3. (4)は「学校の勉強より進んだ内容を、難しい内容を勉強している」、「学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している」、「これら両方の内容を勉強している」、「これらの内容のどちらもいえない」と回答した子どもの割合。

(学習に対する意識)

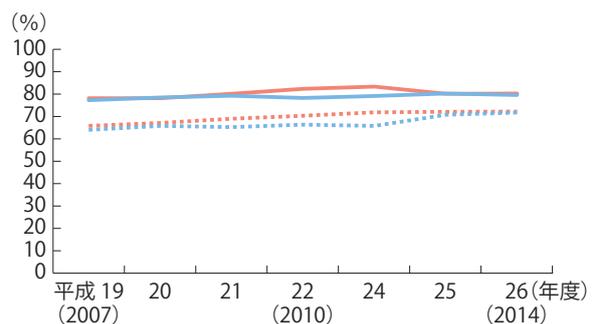
○中学生になると理数離れ。(図表20)

図表20 小学生・中学生の学習に対する意識

(1) 好き



(2) 授業の内容はよく分かる



(出典) 文部科学省「全国学力・学習状況調査」

(注) 1. (1)～(4)は各設問に対し肯定的な回答(例:当てはまる,どちらかと言えば当てはまる)をした者の割合。(5)は設問に対し「難しいと思う」「どちらかといえば、難しいと思う」と答えた者の割合。

2. 平成23年度は東日本大震災の影響などにより調査が実施されていない。